

わたしの
好きなこと

北の風景、身近な花、静物画
60歳から水彩画を描き始めて



札幌市西区西野3条6丁目にある「あおば薬局本店」にて。ウィンドウにも季節ごとに絵を飾っています。



TSUBAKI (椿) /F15



冬のサイロ/F8



雪の川辺/F8



秋の好物/F6

日本人を筆頭に、世界的に見ても多くの人が70代、80代を生きたりできるようになったのは、長い人類史の中では、つい最近のことには過ぎません。それゆえに、世界的によく知られている画家たちの寿命の長さは極めて驚異的。一例をあげるとルノワール78歳、モネが86歳。ミケランジェロ88歳。葛飾北斎や横山大観は89歳。ミロ90歳、かのピカソは91歳。シャガールにいたっては98歳。言うまでもなく医学や衛生が現在より遥かに未発達な時代なのに、これは驚くべきことです。しかも、ほとんどの

画家が生涯現役を貫き、絵を描き続けています。まるで絵を描くことが健康長寿に影響を与えているかのようです。事実、研究者からは「脳の活性化、認知症リスクの低減、ストレス軽減と心の安定、社会的なつながりなどが関係している」と報告されています。また同時に、絵は観る者にも良い影響を与えることから、欧米のある国では美術鑑賞の治療効果を考え、医師が美術館の入場券を処方する取り組みが行われています。

さて「60の手習い」という言葉がある通り、新しいことを始めるのには、いくつになっても遅過ぎることはありません。60歳から水彩画を始めた、札幌市西区西野の薬剤師、小長谷孝子さんを訪ねました。

現在83歳ですが、お会いするとまったくそう見えません。あまりにも若々しくて驚かされましたが、どうやら、やはり絵が関係しているのだと思いました。



小長谷 孝子さん (83)

●昭和17年生まれ。昭和40年、東北薬科大学(現 東北医科大学)を卒業。その後、仙台市から来道。札幌市の夫の元へ嫁ぎ、西区西野にて「あおば薬局」(調剤薬局)を開業し、長く薬剤師として活躍。令和8年で創業60周年を迎える。60歳から水彩画を始め、現在も週一で絵画教室に通う。

絵画仲間との交流が楽しい。

「ひと昔前で言うのと、定年の年。仕事も落ち着き始めた60歳の時、何か新しいことを始めようと決めました。舞踊やダンスは不向きだと思い、どうせなら長く続けられそうな気がしたので、水彩画にしました。

現在は、宮の沢の「ちえりあ教室」(札幌市生涯学習総合センター)に毎週一回2時間・木曜日に通い、酒井芳元先生(絵画グループ「かおり」代表)にご指導いただきながら絵を楽しんでいます。師事するのは酒井先生で3人目で、過去に教えていただいた画家の先生たちは高齢のため指導者を引退しましたが、酒井先生はまだお若いのですが、絵も人柄も大変人気のある方で、

教室には遠く東京から通われている人も。約20名のグループ会員(全体で約80名)が教室に通っていますが、中には大学教授や会社の経営者さんなど、さまざまながいて、実は絵を描くことよりも、彼らとお話することの方が好きなのです」

薬剤師としても現役です。

「二人っ子の私の後を追うように仙台から札幌に移住した親も、夫も旅立ってしまいました。私もケガで手術をしたり心細くしていたところ、8年前に東京で薬剤師をしていた娘が帰郷し、調剤薬局を継いでくれました。私も現役の調剤師としてお薬の一包化や経理のお手伝いをしています。まだまだ健康でいなきゃとジムにも通っています」



秋の中島公園/F8 小長谷さんの作品は安定感と色彩感覚が豊か。